

来るだろうと思つたのですが、みんな口を一文字にしたまま合掌し続けていられるのです。私にとつて本当に異様な雰囲気でした。「ハハーやっぱり禅宗ではお念仏しないんじゃない」と得心したことです。呉の禅宗のお寺で法話会があり、時々お参りしますが、ここでも全くお念仏に当たるものが出ないのです。

蓮如上人のお歌に、

念仏の数にはよらぬ  
信なれど信には多き  
念仏の数

しです。ちようど親のありがたさが分からない生憎な感じが、子供が、いくら「おかあちゃん」と呼びつづけていたとしても、自分の都合で呼んでいるだけで、本当の意味で親心が分かつている、届いていないとは言えませんね。しかし、「おかあちゃん」と呼ばないでいたのが、大人になって、また親と死別してようやくありがたみが分かり、しみじみと心から「おかあちゃん」と呼べるようになるように、アミダさまのお慈悲が分かれば「ナマンダブ ナマンダブ」とお念仏が申されるようになるのです。心の底から「おかあちゃん」と呼べる人の人生は幸せです。今日「お念仏の声が聞こえなく

なつた」と言われますが、たしかに本当の仏法の喜びが、受け取りにくくなつてきたのは、確かでしょうが、それでも親(アミダ)さまの心が分かる者のいる限り、お念仏の声が絶えるはずはありません。どうぞ皆さんお念仏が申される人にならせていただきます。



ところ、先日ある人から「真宗のお聴聞と洗脳とは同じですか?」という質問を受けました。皆さんはどうお思いですか? 私はこの意表を突く質問に感心すると同時に、この人が、これをチャンス

に仏法に近づいて下さることを念じました。「洗脳」について辞書を引きますと、**共産主義社会**における、旧体制の知識人に対する強制的な思想改造②その人の主義や思想を根本的に改めさせること。との定義があります。いづれにしても強制的なものです。また、先ごろはやつたマインドコントロールとどう違うかという点、**監禁**などの暴力を伴うものを洗脳といい、暴力を伴わないものをマインドコントロールというのだそうです。真宗は、お寺に監禁したりしませんので決して洗脳してあるのではありません。

るのは、『**歎異抄**』の中で、親鸞さまが、お弟子たちの質問に対するお答えの仕方です。ご自身の信心を述べられた後に「このうへは、念仏をとりて信じたてまつらんと、またすてんと、**面々の御はからひなり**」と仰言つて、ご自身のお領解をお弟子に強制するどころか、むしろ逆に「面々の御はからひなり」とお弟子たちを突き放されているのです。私はそこに、それぞれが本当の意味で自覚し、自律すること、またお互いにそれを尊重しあうことを、親鸞さまは願つておられる、大事にしように感じているように感じています。

しかし、恐ろしいことに、マインドコントロールは、「強制」ではなく「私は自ら喜んで選択した」と人に思わせながら、実は**第三者が巧みに選択の方向を操つて**いる状態をいうそうです。「希少価値の高いものに魅力を感じる」「親切にされたらお返しをしたくなる」「一度体験すると自分が選択した結果を肯定したくなる」「周りの雰囲気と同調する」など、人間に自然に備わつた習性を利用して、相手を自分のペースに引き込んでいくのだそうですから、これほど罪深いものはないですね。ただ結局のところ「もう私は脱退する」と言つた時の反応が、ホンモノかどうかの目安になるかもしれませぬ。

このころでは、もつぱ